

2014年度		リフレクションペーパー					
学科名	経営ビジネス学科						
科目名	株式会社論						
科目区分	専門科目	単位数	2	開講時期	後期		
必修・選択の別	選択						
担当者	片山准一						
授業の到達目標 (シラバスから)	株式会社の発展過程を唯物弁証法的論理を以って、歴史的・論理的に説明できる。株式会社企業が抱える問題点・課題を説明できる。						
日程と内容	1. はじめに 2. 資本の結合 3. ～4. 企業形態の展開 5. 株式会社の経済理論 6. 株式会社の発生史 7. 株式会社の発展 8. 株式会社の古典的学説 9. 株式会社の決定指標 10. 株式会社方法論・論争 11. 株式会社の支配論争とコーポレート・ガバナンス論 12. 企業集中形態 13. カテル 14. トラスト 15. コンチェルソ						
成績評価基準	定期試験	70%	実技				
	臨時試験		部外評価				
	報告書・レポート	30%	プレゼンテーション				
	課題 演習		計	100%			
授業到達目標の達成度	今回は受講生59名。出席は20名前後。あとは出席したり欠席したり、私語をしたり、寝たり、中途入退出したりで、真剣さが不足していたようである。その結果2名のみしか合格点に達しなかった。うち1人は95点をとっている。何度か小テストをしてもこの学生だけはいつも高得点を取っていた。このような学生が今後一人でも多くなることを期待している。						
反省点	講義中何度も繰り返し質問を行っても、多くの学生はワカリマセンを連発するのみであった。もっとしつこく質問して、答えさせる必要があったのかもしれない。それと最低限の記憶力がなければ毎回同じ質問を投げかけてもノートを見ての回答であったりしたので、正確に記憶する訓練が必要と思われる。						
来年度の計画	昨年のように少人数であれば学生諸君も私語もなく、寝たり、途中入退出もなく、静粛且つ緊張感のある講義環境を保てることがわかったので、教育効果を考えると少人数教育が望ましいと思われる。						
授業評価アンケートに対するコメント	アンケート用紙に「授業がとても分かりやすく興味のある内容だった」との感謝の言葉があった。他方で、「結構、内容が難しかった」と真逆の意見もあった。講義に関しては、ある程度のレベルを維持していかなければならない。受講生側の大いなる努力が必要と思われる。ただ、出席しておればわかるというものでもない。しっかり予習して、講義に臨まなければ意味のないものとなる。講義において最低限の集中力、記憶力、理解力が必須と思われる。						
履修登録者数	59名	定期試験 受験者数	38名	合格者数	2名	合格率	5%